## 慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	米山桂三著『產業□會學序說』
Sub Title	K. Yoneyama : An introduction to industrial sociology
Author	十時, 嚴周(Totoki, Toshichika)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1960
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and
	sociology). Vol.33, No.11 (1960. 11) ,p.100- 106
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	紹介と批評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19601115- 0100

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

紹介と批評

## 米山桂三 著

## 『產業社會學序說』

一 人間關係とかヒューマン・リレーションズを口にすると、勞働組合の一部管理にヒューマン・リレーションズを口にすると、勞働組合の一部のた。そしてもつと極端なのは、會社の經營者が、勞務管理や人事や、あるいは他人と感情的にもつれていることを意味するようにない。そしてもつと極端なのは、會社の經營者が、勞務管理や人事にヒューマン・リレーションズをよくするとか、人間關係とかヒューマン・リレーションズという言葉を口にしたり耳にしたことのない人は、最近極めて少くなつたようである。人びとはヒューマン・リレーションズをいう言葉を口にしたり耳にしたことが、

原則が、一般に安易に應用されはじめると、とんでもない見當ちがこのように、もともと科學的な調査研究からみいだされた原理・

けることがある。

あるといつたほうが正しい。
あるといつたほうが正しい。
あるといったほうが正し、
な際者に課せられた一つの重要な社會的責任でを矯正することは、研究者に課せられた一つの重要な社會的責任でを矯正することは、
の科學的研究にたずさわるものにとつては、みすごすことのできない由々しい問題の解決に、全然益するところがない。むしろ、このい由々しい問題の解決に、全然益するととろがない。
とできないの誤解や、不用意な應用が流行することは、大變興味あることであるといつたほうが正しい。

世ューマン・リレーションズ活動がアメリカをはじめ世界各國の 世ューマン・リレーションズ活動に基本的な混迷がみられると を見逃すことができない。というよりは、産業社會學とよばれ今日か を見逃すことができない。というよりは、産業社會學の領域におけ を見逃すことができない。というよりは、産業社會學の領域におけ を見逃すことができない。というよりは、産業社會學の領域におけ を見逃すことができない。というよりは、産業社會學の領域におけ を見逃すことができない。というよりは、産業社會學の領域におけ を見逃すことができない。というよりは、産業社會學の領域におけ である。そして、現 であるいはこの分野の基本的研究と遊離しそれを無視することから生 なり、それは、産業社會學上の理論的研究に不備な點があるか、 であるいはこの分野の基本的研究と遊離していたのである。

に發表されることになつた。優れて理論的なその全貌が明らかにさ的探索に努力してきた本塾米山教授は、その長年の研究成果を本書ところで、産業社會學をいち早くわが國に導入し、銳意その理論

で極めて野心的な、しかも鋭い洞察力に支えられた教授の獨創性をあるものは、ここに明白な形で摘出されることになつた。その意味も流布している實用的ヒューマン・リレーションズ活動の偏倚性のれたことによつて、専門領域におけるこれまでの幾多の論爭や、廣

本書に發見しうるのである。

そこで本稿においては、主としてその間の教授の理論的探索の跡のがある。

とその構成を、「産業社會學序説」の章にしたが い ながら考察して

を追つて概觀することにしよう。 ニー 産業社會學序説の章は、六節から構成される。いま、その順

みたいと思う。

第一節「産業社會學の成立」においては、特殊社會學乃至は應用第一節「産業社會學の成立」においては、特殊社會學乃至は應用之の立場性を、まず、明白に提示しようとするわけである。そしての立場性を、まず、明白に提示しようとするわけである。そしたよつて、廣く一般化した産業社會學の一般的樣相を指摘し、そとによつて、廣く一般化した産業社會學の一般的樣相を指摘し、それに含まれる諮問題點への伏線をしめしている。とくに、全ての産業社會學者が引用するように、産業社會學の成立における有名なホーソン實驗の意義をとりあげ、その社會學の成立における有名なホーソン實驗の意義をとりあげ、その社會學的意義を强調する。というのは、一連のホーソン實驗につき、これまでしばしば心理學的な、あるいは社會心理學的な側面のみが指摘されてきた嫌いがなくもないので、そのために、その後の産業社會學の競展過程に一種の心理主義が横行した時期があつたからで、それらの誤りを出發點において取り除こうとするためであろう。産業における人間關係を個々ので取り除こうとするためであろう。企業における人間關係を個々のて取り除こうとするためであろう。企業における人間關係を個々ので取り除こうとするよりに対している。

る意味からしても、本書を手にした筆者のよろこびもまた大きいも

實務家が狹い了見で認知しているような、いわゆる實用的ヒューマ學の方向に獨走しはじめる傾向がある。そして、その結果、一部の業社會學というよりもむしろ、產業心理學あるいは產業の社會心理個人の心理的側面に重點をおきながら考察を進めると、それは、產

ところで、人間關係論と人間關係理論の分岐點は、第二節「產業場は、首尾一貫して社會學のそれに準據しているものといえよう。この點、人間關係論と人間關係理論をハッキリ區別する教授の立

ン・リレーションズ論におちいる危險が生じてくるのである。

いる。この問題は社會學の基礎理論に直接に關連するが、それは、における人間行動と人間關係」において、かなり詳しく説明されて

「人間行動および人間關係の構造」と題する圖表(一五頁)に簡潔

に要約されている。

るのである。

になり、産業社會學の性格論爭にまで發展する契機がここに存在す

ル・システムの概念に結晶化されるのである。 幾つかの人間關係の形態が浮彫りにされるVI人間關係に到達する。 まつて菱にはVI集團の概念に到達し、それらの相互作用および役割 よつて菱にはVI集團の概念に到達し、それらの相互作用および役割 はつかの人間関係における相互作用が頻繁に繰返されることに さらに、この人間関係における相互作用が頻繁に繰返されることに さらに、この人間関係における相互作用が頻繁に繰返されることに とに

たといつて、その結果を誇らしげに發表して い る……」(一頁)よ またそれをそのままとり入れてわが國でも同じ實驗や調査結果が出 た研究のスキームや態度調査技術を何の反省もなしに紹介したり、 「アメリカの工場の片隅や、大學・研究所の實驗室で行われた優れ とくに、全體的な文化のア ス ペ ク トを重視する教授は、また、

らは、 教授の早くから指摘し警告してきた重要なポイントであるが、それ げる際の、その獨自のわが國の文化に注目する必要のあることは、 社會的文化的背景の異なるわが國産業における人間關係をとりあ 第三節「人間關係への人類學的アプローチ」の骨子をなして

會變動の流れとウラハラの關係にあることは自明の理であろう。

うな狀況に極めて批判的である。

いる。

界についても深い注意を拂つている。第四節「産業社會學における でにも社會學者や經濟學者の一部の間で論議されてきたが、教授は 活動を社會組織との關連において檢討しようとする方針は、これま 經濟學の地位」は、そのような問題を中心に進められている。經濟 のみならず、他の社會諸科學との統合的研究乃至はその可能性と限 授は、その産業社會學の基礎に人類學との協力の必要性を指摘する 『社會變動論的均衡概念』の提唱によつてこの問題に接近しようと ところで、廣義の産業現象を綜合的觀點から把握しようとする教

> はつねに動く均衡であり流れる均衡であつて、終極的には長期の社 の觀點から再構成しようとする教授の試みには、みるべきものが多 ぎる産業社會學的方針も保守・懐古主義あるいは經營者的偏向主義 立ち入らないことにするが、均衡モデルは、社會現象に關する限り いと考えられる。この新しい概念は、近々刊行が期待される教授の と非難されてきたのは事實であるが、その均衡モデルを社會變動論 な批判が加えられてきたが、またそれ故に、均衡モデルに固執し過 『世論の本質論』に詳述されるといわれているので、ここでは深く 社會學における均衡モデルは保守的、靜態的であるという一般的

會的存在としての人間行動の極く限られた一側面のみを明かにしよ ぱら實驗的條件以外のすべての要因を人爲的にコントロールし、社 對象を工場乃至は會社の全體的文脈から考察することなしに、もつ 倒したことも事實であつた。しかし、それらの研究結果の意義に關 飛躍的な進步がみられた。それ故に、多くの研究者がこの領域に殺 の方法に極めて優れた利點がみられ、それだけに實證的調査技術に に觸れている。スモール・グループの研究では、綿密な觀察・測定 は、これまで産業社會學的研究の中心的存在であつた小集團の研究 しては、比較的問題にするものが少なかつたが、教授は「その研究 第五節「産業社會學におけるスモール・グループ研究の意義」で

紹 介 ع 批 評 試みているように思われる。

なソシアル・システムとしての工場や會社、あるいは社會の全體的綿密な觀察が可能であるような面接的小集團の研究は、より互視的でけを明確にしようとしているのである。そして、調査技術に優れてける際の、前述の人間關係理論の重要性を再確認しようとする。つける際の、前述の人間關係理論の重要性を再確認しようとする。つうとするものに外ならなかつた」(六〇頁)とし、小集團をとりあうとするものに外ならなかつた」(六〇頁)とし、小集團をとりあ

認識とどのように統合されうるかが、次の重要な課題となるのであ

引用しながら、教授は關節理論に强い關心をしめす。
世學、社會學、人類學におけるこれらの問題をめぐつての諸論議をして、かつ重要な理論構成上の問題がとりあげられている。社會心して、かつ重要な理論構成上の問題がとりあげられている。社會心は、、社會學理論における徴視における論述がそれに該営する。そこでは、社會學理論における徴視がでして、

である。その限りにおいて、そのシグメントを中心としながらも他メンツのなかの特定の一つのシグメントを中心にとりもたれるものされることを特徴とする。特定の具體的人間關係は、それらのシグメンツにわけられ、しかもそれら相互の關係は組織的綜合的に把握メンツにわけられ、しかもそれら相互の關係は組織的綜合的に把握

できるであろう。
のベた社會變動論的均衡理論によつて支えられているということがのが、それを間斷なく變動の方向に導いているという點で、前にりあげ、それを間斷なく變動の方向に導いているという點で、前にのが大社會變動論的均衡理論によつて支えられているという點で、前にの、だ社會變動論的均衡理論によつて支えられているということがのべた社會變動論的均衡理論によって支えられているということがのが、それを間斷なると思われる。その點が關節理論に特有の一個のシグメンツとの關連において、より廣い視野からその特定の人間のシグメンツとの關連において、より廣い視野からその特定の人間のシグメンツとの關連において、より廣い視野からその特定の人間のシグメンツとの関連において、より廣い視野からその特定の人間のシグメンツとの関連において、より廣い視野からその特定の人間のシグメンツとの関連において、まり度い視野からその特定の人間のシグスというになって、

ものと思われる。 の分野であつた勞使關係の諮問題にも、今後、有益な示唆を興えるの分野であつた勞使關係の諮問題には、產業社會學上の比較的未開拓以上の見地からとり あ げら れた「勞働者の二重忠誠」あるいは

一勢に走りだすことがある。この領域の過去の展開過程と論爭の焦のような行詰りの迷路になだれこみ、ときには見當ちがいの方向にのように、その生々しい力は、あらゆる方面に、ときには袋小路れると、たとえば、强烈なエネルギーが一時に爆發して四方に飛散れると、たとえば、强烈なエネルギーが一時に爆發して四方に飛散れると、たとえば、强烈なエネルギーが一時に爆發して四方に飛散れると、たとえば、強烈なエネルギーが一時に爆發して四方に飛散れると、たとえば、強烈ない。

そのものの探求に外ならなかつた。わが國に産業社會學を導入して發展方向を示してきたものは、とりもなおさず、社會學の基礎理論しかしながら、その間にあつて、この學問の順調なしかも着實な

點を顧みるとき、とくにその感が深いのである。

の見當ちがいな偏向に決定的な判定が下されたことも事實であろるが、そのことによつて、これまでの産業社會學上の理論論等のうし、ちの若干のものに、明解な終止符がうたれたことも事實であろうし、ちの若干のものに、明解な終止符がうたれたことも事實であろうし、以來、首尾一貫してその理論的探索に努力を重ねてこられた教授の以來、首尾一貫してその理論的探索に努力を重ねてこられた教授の

からである。

5

の一貫した顯著な特徴がみられるのである。 の一貫した顯著な特徴がみられるのである。 理論と調査との間によき調和を保たしめるという現代社會科學において、それらを事實の究明から検討しようとする努力に、本書において、それらを事實の究明から検討しようとする努力に、本書の理論構成と不可分の形でとりあげられている。 一方においてつねに理論の精密性を追求すると同時に、他方れる。 一方においてつねに理論の精密性を追求すると同時に、他方れる。 一方において、本書の理論構成と不可分の形でとり忠げられていると考えらの一貫した顯著な特徴がみられるのである。

ぞまれる。その點、本書では詳しく觸れるところがなかつたようでて、教授からより具體的な診斷と勸告の與えられることが新しくの前にのべたが、現在の經營に お け る 人間關係的アプローチに關し用面での人間關係論にも、その指導概念を豐富に提供しうることは正のような狀況のもとにおいては、産業社會學に準據點をおく實

る研究者のみが、そのことを果し得る資格があるからに外ならないものがあろう。というのは、理論と調査の適切なバランスに注目すあるが、今後の教授のこの方面への進出に期待されるところ大なる

重要性が次第に認識されはじめているが、その場合のケースにあら管理の教育・訓練のための用具として、最近、ケース・メソッドのところで、本書のなかで教授も觸れられたところであるが、經營

理の習熟という特定の目的のために、經營學、とくに、財務・計數・ まうな理論構成にその基盤をもつものといわねばならない。 とく に、日本でのケースによる教育と訓練は、その基盤として、日本産 かつてのヒューマン・リレーションズ活動の無批判な輸入騒ぎと軌 かつてのヒューマン・リレーションズ活動の無批判な輸入騒ぎと軌 を一にすることは火をみるよりも明らかであろう。その點からして を一にすることは火をみるよりも明らかであろう。その點からして を一にすることは火をみるよりも明らかであろう。その點からして を一にすることは火をみるよりも明らかであろう。その點からして を一にすることは火をみるよりも明らかであろう。その點からして を一にすることは火をみるよりも明らかである。 できない貴重な存在であるといるより。 できない貴重な存在であるといるより。 できない貴重な存在であるといるより。 できない貴重な存在であるといるより。 できない貴重な存在であるといるより。 できない貴重な存在であるといるより。 できない。 できな

さて、本稿においては、本書の理論的側面のみに焦點をあわせな

跡するという、詳細な具體的な研究上の手續きが残されていること生産・市場といつた特定の具體的領域との相互の接合點を丹念に追

はいうまでもない。

紹介

ついても同様の方針が主張されうると思う。

多くの人びとに、本書の讀まれることを强く希望し度いと考えるの體の一層の發展が今後に期待されるのである。 でのようなわけで、入門者、實務家、專門研究者を含む廣い層の體の一層の發展が今後に期待されるのである。

である。〈慶應義塾大學法學研究會刊

昭和三五年

二二三頁

(十時嚴周)